

Q8-「キラー海藻」って何？

A- 緑藻イワヅタ属の一種イチイヅタ (*Caulerpa taxifolia*) で、毒性を持つようになった変異株が「キラー海藻 (killer algae)」と呼ばれています。本来は毒性をもたず、インド太平洋 (日本では沖縄以南) やカリブ海の熱帯・亜熱帯のサンゴ礁域に生育する海藻で、姿が美しいことから鑑賞用として水槽で培養されていました。ドイツの水族館で選抜育種を行ううちに低水温耐性と毒性の強い変異株が生まれ、モナコの水族館から流出したものが広がったと考えられています。この仲間は繁殖力が強く匍匐枝や断片で増えることができ、これを食べる動物がいないので、海産動物の産卵・保育・生息の場となる他の海藻群落を駆逐して分布域を拡大するようになりました。地中海では、1984年にモナコ沿岸の浅海域で 1 m²ほどの変異型イチイヅタの群生が発見されましたが、船の錨や魚網に付着して広がり、1989年には 1~2 ha、1998年には 5カ国の沿岸で約 4,800 ha を占め、2003年には 1,300ha 以上に拡大しました。北米やオーストラリアでもその分布が確認されており、日本でも 1992~93年に能登半島沿岸で一時的な生育が見られましたが、定着したという報告はありません。